鳥取大学工学部長候補者届出書

工学部長候補者選挙管理委員会

立候補者氏名	河 合　　一　　印		届出月日	平成１８年１２月２８日
自薦・他薦の別	自薦			

学部長候補者選挙に立候補の所信

工学部教員各位殿

立候補者　河合　一

工学部長候補者選挙に立候補するに当たり、所信を述べさせて頂きます。

受験生数の減少と質の低下が言われている現在、学生には勉学に精進し、また生活して良かったと感じられる鳥取大学、また教育・研究共に社会に貢献できる鳥取大学にしていかねばなりません。そのためには、教職員一人一人が自分の適性を生かして主体的に参画し、より良い教育・研究・運営システムを構築することが必要です。そのために、以下のような事柄を実現させることを考えております。

① 工学研究科改組の議論の加速

現在副井研究科長の下で検討されている工学研究科の改組構想を基にして、学生には進学して学習・研究をしたいと強く感じる、また教員には充実した研究を遂行し得る魅力ある大学院を目指して議論を加速し、平成 20 年度には大学院の部局化を実現したく思っております。

② 議論・意思決定の場としての教授会

独法化後の大学においては、執行部からのトップダウン的な事項の増加が予想されます。工学部教授会においては、事項の軽重を適切に判断し、議題をもっと整理・精選して、実質的な議論が労力的にも時間的にも出来るようにして、しっかりとした工学部の意思を決定し、意見表明することも必要なのではないでしょうか。具体的には、細かいですが、議題をもっと整理・精選すること、また基本的に紙を見て分かる報告は口頭では行わないこと、などが考えられます。

③ 若手の思い・意見の汲み上げ

鳥取大学、工学部の将来を担う、助教授・講師・助手の方の教育、研究、予算（運営費交付金、学長裁量経費）等についての意見を汲み上げる仕組みが必要ではないのでしょうか。以前、懇談会のようなものが設置されましたが、途中で消滅したように思います。①の意味も含め、もっときちんとした形で存在し機能させることが必要と思います。

④ 学生に勉強させること

現在、学生の勉学への興味を喚起し継続させるべく先生方の工夫と努力がなされております。勉学への自覚を生むこれらの取り組みは、大学教育の本筋であります。しかし、努力の成果の指標の一つとして留年率を取り上げると、平成 15 年入学生では約３５％です。そこで、学級教員および TA 制度を有機的に機能させると共に、学生が勉強せざるを得ない制度も併せて必要なのではないでしょうか。以前は、2 年と 3 年の間にも関門がありました。一度だれてしまうと、なかなか元に戻れません。

鳥取大学構成員である学生・教員・職員一人一人にとって、勉学の場、働く場として活力にあふれ、誇りと充実感の持てる大学・学部を目指したく思っております。

以上です。よろしくご理解頂ければ幸いに存じます。